

# キャンパスプラザ山口

前田哲男

## Campus Plaza in Yamaguchi

Tetsuo MAEDA

### 1. はじめに

オランダの人文学者であり、『痴愚神礼賛』の著者であるエラスムスの感化を受けたトマス＝モア(1478-1535)は1516年に『ユートピア』を出版している。イギリス王ヘンリ8世の外交使節として大陸滞在中に本書の主要部分が執筆され、初版はラテン語で書かれている。ユートピア国は人類の目標とすべき理想国家であり、人々の労働時間はわずか6時間であり、国民の大半が男も女も、肉体労働の余暇を利用して学問の勉強を一生続けている。そして他人の不幸を招いてまで自分の幸福だけを求めないよう細心の注意が払われ、虚妄の快樂ではなく真正な快樂を求めて、人々は心を練り磨いている。資格や就職のために学ぶという矮小化された目的ではなく、学ぶために人間は生きているという、精神の自由な活動と教養を重視する生活スタイルが理想としてここに描かれている。

維新の地・山口市においては、平成13年11月から「やまぐち街なか大学」という活動が実行委員会方式で運営されている。これは、地域住民の生活の質的向上を目指して、いつでも・どこでも・誰でも・大いに学ぼうという市民主導の生涯学習活動であり、大学が地域に開かれていくとともに、地域全体を大学のキャンパスにしていく活動である。大学教員・学生・市民がまちのいたるところで研究・学習・ワークショップ等を実施し、生きることは学ぶこと、学ぶことは生きることの市民生活を構築する。自己をつねに磨いている人々が、自分達の研究や学習の成果を用いて、地域や人々のために活動していく。人

は世界を計画する前に自らを啓発しなければならなく、こうした市民活動の活発な民主的地域社会の実現を目指している。

この施設計画は、「人と文化・芸術と自然の会おう場」という空間構成イメージのもとに、市民による生涯学習活動の拠点を提供するものである。

### 2. 敷地

県立大学のある宮野地区には、いたる所に田園風景が残っており、街中に水田が取り残され、住宅と農地が混在している。こうした街中に取り残された水田地帯を候補地としている。

### 3. 施設構成

自然の大いなる営みに目を向けることは、日常に埋没せずに視野を広げることに繋がる。自然現象を研究するあるいは観賞するといった、自然と共生した生活スタイルが一般化するように、自然観察の可能な浸水公園の中に、緑の丘と雲のような半透明の屋根を提案している。

建物は地下1階・地上1階であり、半透明な屋根の架かる2つの広場が中心に置かれ、講座室等の生涯学習の拠点機能が広場を取り囲んでいる。天候の影響を受ける空虚な広場は、直接的な人間的接触を演出する場であり、人間の行為が生起するとき、その生じること、そのことの可能性を表現する場所である。そしてこの象徴的空間構成は、詩心の復権に繋がると考えられる。そのためにここでは、「自然の響き」と「安定した環境イメージ」を都市郊外に提供することを目指している。



